

第96回古河公方公園づくり円卓会議議事録

定例会議	開催日	令和7年11月20日(木)	時間	13時30分から15時45分
開催場所	古河公方公園管理棟展示室			
出席者	22名（委員12名、主管課・事務局8名、オブザーバー2名）			
1. 開会				
事務局より開会挨拶 パークマスター挨拶 オブザーバー紹介後、各自挨拶を実施				
2. 報告事項				
報告第5号				
地域振興公社				
公園朝市について				
7月及び9月の朝市は猛暑による熱中症リスクのため中止				
11月16日開催、熱気球体験搭乗を実施し、約400名来場				
よかんべまつりについて				
11月1日・2日に古河商工会議所主催で開催				
天候に恵まれ、来場者は2日間で10万人（主催者発表）				
園旗の制作について				
制作業者が決定見積もり取得中				
厚手の化学繊維を使用。桐紋は黒、金色部分は印刷可能な近似色を使用				
完成までは時間を要する見込み				
報告第6号				
都市計画課				
長寿命化計画について				
長寿命化計画を景観プランニング社が策定中。今後5年間で修繕・更新を実施				
来年度は展示室・休憩室側の空調設備更新工事を予定				
花桃の植樹について				
花桃（矢口）80本の植栽を1月から2月に予定				
寄付について				
古河東ロータリークラブより掲揚ポールの寄付、基礎工事完了				
古河ロータリークラブより花桃25本の寄付予定				
植栽セレモニーを令和8年2月13日に実施予定				
3. 討議事項				
討議第6号				
園内の植樹について				
樹木更新の考え方				
枯損は自然現象として理解し、危険木は伐採すべき				
成木は高額なため、イベント等と連動した幼木植栽が望ましい				
カミキリムシ被害が深刻であり、計画的な更新が必要				

伐採木の扱い

枯れ木は害虫・菌の侵入があるため基本は処分

倒木で健全な部分があれば再利用の可能性あり

公方様の森の枯木は、園路から離れ安全が確保できる場合は残すことも可能

切り株の椅子利用は、虫害・腐朽の観点から現状では困難

シダレヤナギの更新

挿し木で増やすことも可能だが、確実性を考えると1.5~2mの幼木植栽が適当
赤城おろしの峰のマツについて

以前は赤松があったが松くい虫で枯死。

モミの木を植える案が提示され、景観形成の観点からも有力。

一方で、クロマツ・アカマツ・ダイオウマツなどの候補も挙がる。

松ぼっくりの大きさや子ども向け活動も考慮すべきとの意見。

耐性苗木を複数植え、生育状況を見て残す方式も提案

ソメイヨシノの更新

クビアカツヤカミキリ対策として伐採後3年間は植栽不可。

忌地現象の観点から、同一樹種の再植栽は避けるべきとの意見

駐車場の植樹

虫害に強く、横に広がり日陰をつくる樹種が望ましい

常緑針葉樹は暗くなる懸念があるため、シラカシ等の広葉樹も候補

鳥類の餌資源確保の観点から多様な樹種を混植すべきとの意見

アスファルト照り返し対策として耐暑性も考慮すべき

まとめ

マツはクロマツを中心に、公社と調整しつつ複数本の植栽を検討

ソメイヨシノ跡地の樹種は次回以降に再度協議

駐車場植栽は多様性・耐暑性・管理性を踏まえ検討を継続

討議第7号

公園北側エリアのベンチ新設案について

設置場所・環境

基本は日影が望ましいが、冬季は日向も必要

道路との距離は車いす利用者の利便性を考慮すべき

景観を楽しめる向きの設定も重要

デザイン・材質

公園景観に合う素朴なデザインが望ましい

石製は夏季高温・冬季低温のため不適

木材は腐朽しやすいため耐候性素材を検討

長時間占有防止のため中央に仕切りを設ける案も提示

現地確認の必要性

議論前に委員全員で現地を歩く機会を設けるべきとの意見

4. その他

修繕要望等について

ジェラテリアの椅子・テーブルの色を旧色（グレー）へ戻したいとの要望
市の備品であるため、市・公社で協議し対応方針を検討する
塗装剥離は手作業で可能だが相当の労力を要するため、方法・費用を整理

その他報告・意見

カキツバタ園北側に湿性植物園を整備中、実生苗の移植を進めたい
枯損木は桃まつり前までに優先伐採
ドッグフェス後の犬の糞放置が多く、マナー周知の強化が必要
ジェラテリアののぼり旗が建築物の景観を損ねているとの指摘

次回会議

開催予定：令和8年2月19日（木）

提案締切：令和7年12月20日までに事務局へ提出

5. 閉会